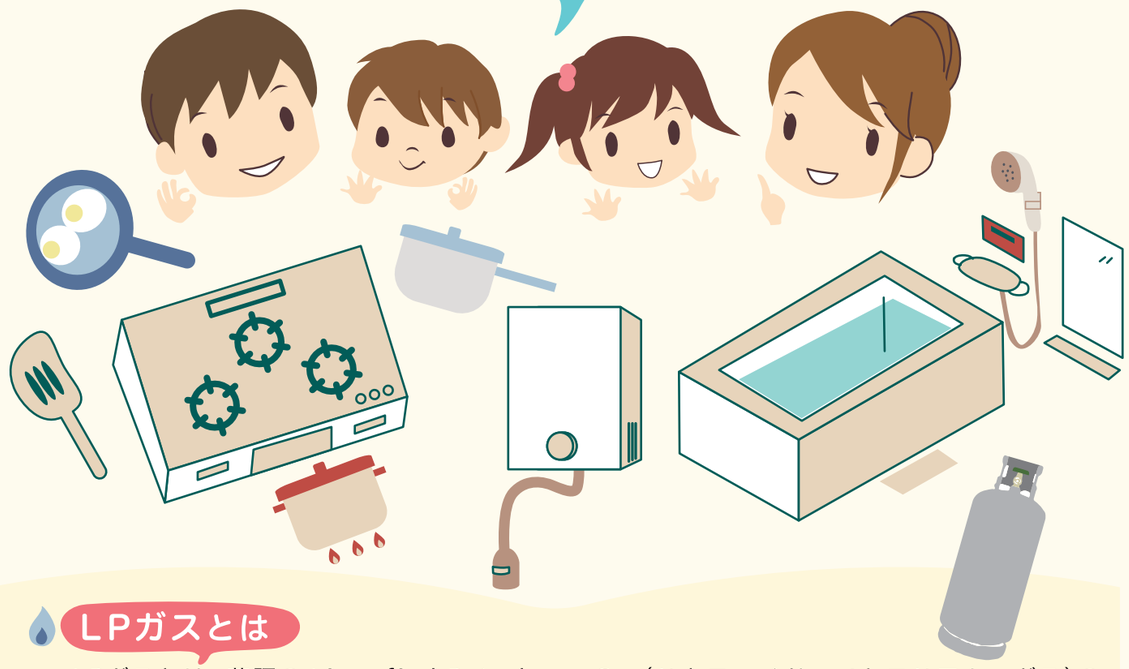
LPガスの正しい使い方

10月はLPガス消費者保安月間です。



LPガスとは

LPガスとは、英語の Liquefied Petroleum Gas（リキファイド・ペトロリアム・ガス）の頭文字をとったもので、日本語では、「液化石油ガス」といいます。家庭用に供給されているLPガスは主成分がプロパン（化学式 C_3H_8）なので、一般に「**プロパンガス**」と呼ばれています。各家庭へは、主に容器（ボンベとも言います）などで配達・供給されています。

LPガスの性質

空気より重い

LPガスは、空気の約1.5倍の重さがあります。そのため、ガスがもれると低いところにたまるおそれがあります。



ニオイをつけてあります。

LPガスはもともと、無色無臭ですが、ガスがもれた場合、すぐにわかるように、ガスに玉ねぎがくさったようなニオイをつけてあります。



令和８年10月

石　川　県

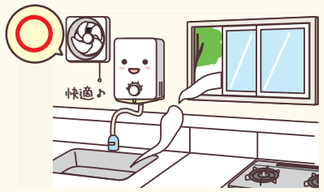
保護者の方へ

一酸化炭素中毒事故防止のために

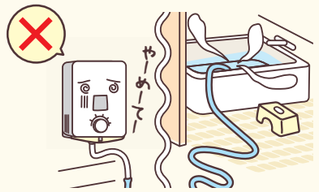
湯沸器やふろがまなどは、ガスを燃焼させるために多くの酸素を必要とします。そのため、換気が悪い場合などではガスが不完全燃焼をおこし、一酸化炭素が発生してしまいます。

一酸化炭素は人体に非常に有害なもので、吸い込むと吐き気や意識を失うなどの中毒症状をおこし、生命に危険をおよぼすおそれがあるため、器具を正しく使い、換気（排気・給気）に十分注意しましょう。

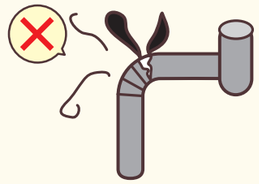
また、不完全燃焼防止装置付のガス器具やガス器具を屋外に設置することも有効な方法です。



使用中の換気に注意しましょう。



小型湯沸器の長時間使用はやめましょう。



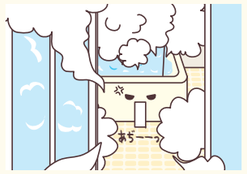
排気筒（煙突）はこわれていませんか。

安心をささえる安全器具

1 ガスもれ事故を防ぐ「マイコンメーター」

マイコンメーターとは、ガスメーター機能のほか、ガス使用量を監視し、異常があればガスを自動的に止めます。

現在は、ほとんどのマイコンメーターに大きな地震の際（震度５以上）に、自動的にガスを止めるなどの保安機能が備わっています。



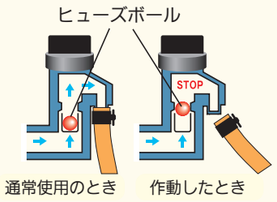
風呂の消し忘れなどで長時間ガスを使用したときには自動でガスを止めます。



わずかなガスもれが 30 日間以上続いたときにはガスもれの表示をします。

2 ガスをもらさないガス栓「ヒューズガス栓」

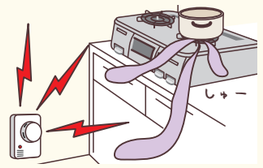
ヒューズガス栓はゴム管がはずれたとき、中のヒューズボールが作動してガスもれを防止します。



3 万一のガスもれに備えて「ガス警報器」

万一ガスがもれた場合、素早く感知してブザーで知らせます。

コンセントは絶対に抜かないでください。



LPガス販売店は、LPガス事故防止のため、定期的なガス設備の点検やガスの正しい使用方法などについてお知らせするなど、消費者の安全を確保することが法律で義務付けられています。

このため、石川県では、県内のLPガス販売店への定期的な立入や監督指導を行なっています。

LPガス設備や販売店に対する疑問など、何かお気づきのことがありましたらご連絡ください。

また、販売店との契約書はしっかり保管しましょう。

機関名	所在地	電話
石川県危機管理部消防保安課	金沢市鞍月１丁目１番地	(076)225－1481
石川県中能登総合事務所企画振興課	七尾市小島町二部 33	(0767)52－6113
石川県奥能登総合事務所企画振興課	輪島市三井町洲衛10部11番1	(0768)26－2303

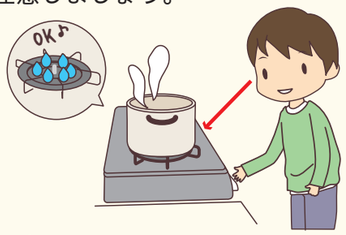
なお、販売事業者の業界団体として 一般社団法人石川県エルピーガス協会 があり、この中に「LPガスお客様相談所」が開設されていますので、LPガスについての疑問や、わからないことがありましたらお気軽にご相談ください。

連絡先	金沢市鞍月２丁目３番地　鉄工会館３階　☎(076)268－1050

LPガスの正しい使い方

その1　必ず目で確かめる。

・点火は必ず目で確かめましょう。
・自動点火の器具は、つまみを押しながらゆっくり回しましょう。
・マッチで点火する場合には、最初にマッチに火をつけてから器具栓を開いてください。
・ガス栓やガス器具にゴム管がしっかりはまっているか、ゴム管にひびわれがないか注意しましょう。



その2　使用中はそばにいる。

・風や煮こぼれで火が消えたり、天ぷらを揚げる時などには、鍋の油に火がつくことがあります。調理の時は、その場を離れないようにしましょう。
・ガス器具のそばには、燃えやすいものは置かないようにしましょう。
・特にガス器具の奥に置いてある物を取る際、服に火が移るおそれがあるので注意しましょう。



その3　青い炎で使いましょう。



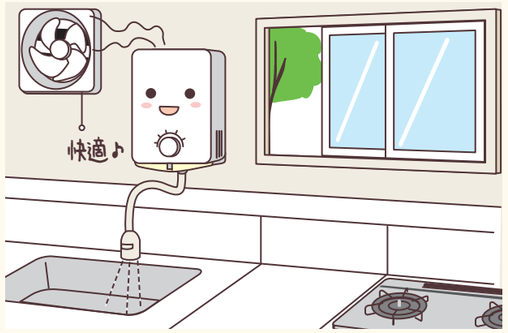
完全燃焼　空気過多　空気不足

その4　部屋の換気に注意する。

小型湯沸器は
　必ず換気扇をまわし、時々窓を開けましょう。
　風呂や洗濯機、シャワーなどへの給湯は絶対にしないでください。

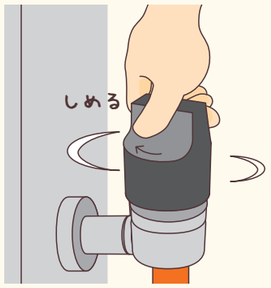
ガスストーブは
　時々窓を開けて、部屋の換気をしましょう。

大型湯沸器・ふろがまは
　屋内設置型では、必ず排気筒(煙突)と吸気口をつけましょう。



その5　ガス栓・器具栓を閉める。

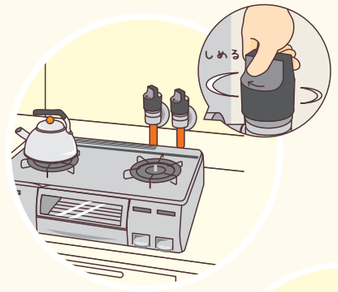
・おやすみ前やお出かけ前には、ガス栓・器具栓が閉まっていることを確かめましょう。
・使っていないガス栓には、必ずゴムキャップをつけましょう。
・長期間ご不在になる時は、容器バルブを閉め、販売店に連絡しましょう。



一酸化炭素中毒に気を付けよう！ ※詳しくは最後のページを見てね！

もしもガスがもれたら

▶ ガス栓、器具栓を閉める。



▶ 室内の火は全部けすこと。



▶ コンセントの差し込みやスイッチにはふれない。
（止まっている換気扇は絶対にまわさず、まわっている換気扇は止めない。）



▶ 戸や窓を十分開けて通風をよくし、ガスを追い出す。



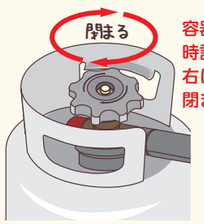


▶ ガス販売店に連絡し、点検を受けるまでガスは使わない。

火災、地震、洪水、大雪のときは

火災のときは

・ガス容器のバルブを閉め、消防職員に容器の位置を知らせて後の処理を頼み、販売店に連絡してください。



容器バルブは、時計と同じ右に回すと閉まります。



地震のときは

・まず、身の安全を確保しましょう。
・揺れがおさまってから、ガス栓、器具栓を閉め、火を消してください。
・ガス容器のバルブを閉めてください。
・ガス容器が倒れたりしないようチェーン、ベルトなどで固定しておいてください。
・大きな地震の後は、必ず販売店の点検を受けてから使用してください。



洪水のときは

・ガス容器のバルブを閉めてください。
・LPガス設備が水をかぶったときは、販売店の点検を受けてから使用してください。
・ガス容器が流されたりしないようチェーン、ベルトなどで固定しておいてください。

大雪のときは

・雪にガス容器が埋まったり、屋根からの落雪で配管やガスメーター等がこわれていることがありますので、容器小屋や雪囲いを設け、容器の周囲について、こまめに除雪をしてください。
・雪おろしをする場合は、LPガス設備に損傷を与えないよう十分注意してください。



～災害後、ガスを使用するときは必ず販売店の点検を受けてください。～